

環境文明 21 検討会によるグリーンジョブの定義と要素および体系化

グリーンジョブの定義と要素

環境文明 21 では、持続可能な社会を形成する経済のあり方としてグリーン経済について検討しており、グリーンジョブはグリーン経済を形成する必要な要素の一つと考えている。

国際労働機関（ILO）におけるグリーンジョブの提案では、主に「環境面」について述べられているが、環境文明 21 ではこの「環境面」に加えて、「経済面」「人間社会面」もグリーンジョブを形成する重要な要素であると考えた。

このようなことから、図に示すように「環境面」を重要な基盤とし、これに「経済面」と「人間社会面」の柱で支えることによりグリーンジョブが成り立つといえる。これらをもとに、グリーンジョブについて検討を重ね、以下のように定義した。

また、この定義に基づき表 2 のように「環境面」「経済面」「人間社会面」についての要素を整理した。

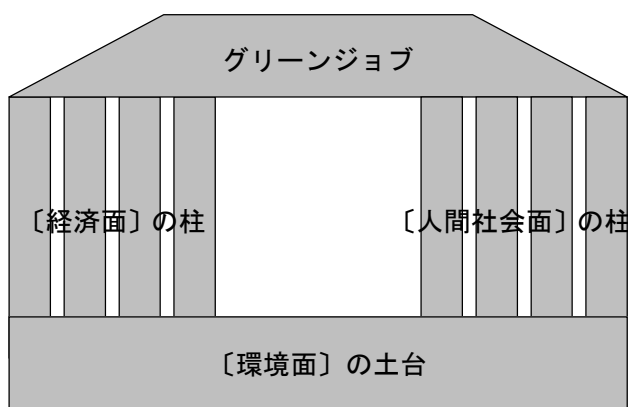


図 環境文明 21 の考えるグリーンジョブの概念図

環境文明 21 のグリーンジョブの定義

企業活動に伴う負の環境影響を減少し、最終的には、環境面、経済面そして社会面でも持続可能な企業や社会になるのに助けとなる雇用のこと。より正確に言えば、グリーンジョブとは、表のような要素を有する、まとも（decent）な雇用のこと。

表 2 グリーンジョブの要素

〔環境面〕	○エネルギーと原材料の効率を向上する
	○温室効果ガスの排出を抑制する
	○廃棄物と化学物質による汚染を最小限にする
	○生態系を保護し回復する
	○気候変動の影響に適応するように支援する
〔経済面〕	○経済活動と環境への取り組みを一体化する
	○地域で雇用を安定的に創出する
	○地域特有の環境資源を積極的に生かす
	○人間として生きる喜びを得られる一定の労働条件が満たされる
	○働く意欲のある人すべての人になんらかの雇用がある
〔人間社会面〕	○ワークライフバランスがとれている
	○職業の研修や生涯学習の体制を強化する
	○公平な市場競争を行っている
	○女性の社会進出を積極的に支援する
	○文化や芸術さらに歴史を尊重する
	○地域の人同士の繋がりがあがる